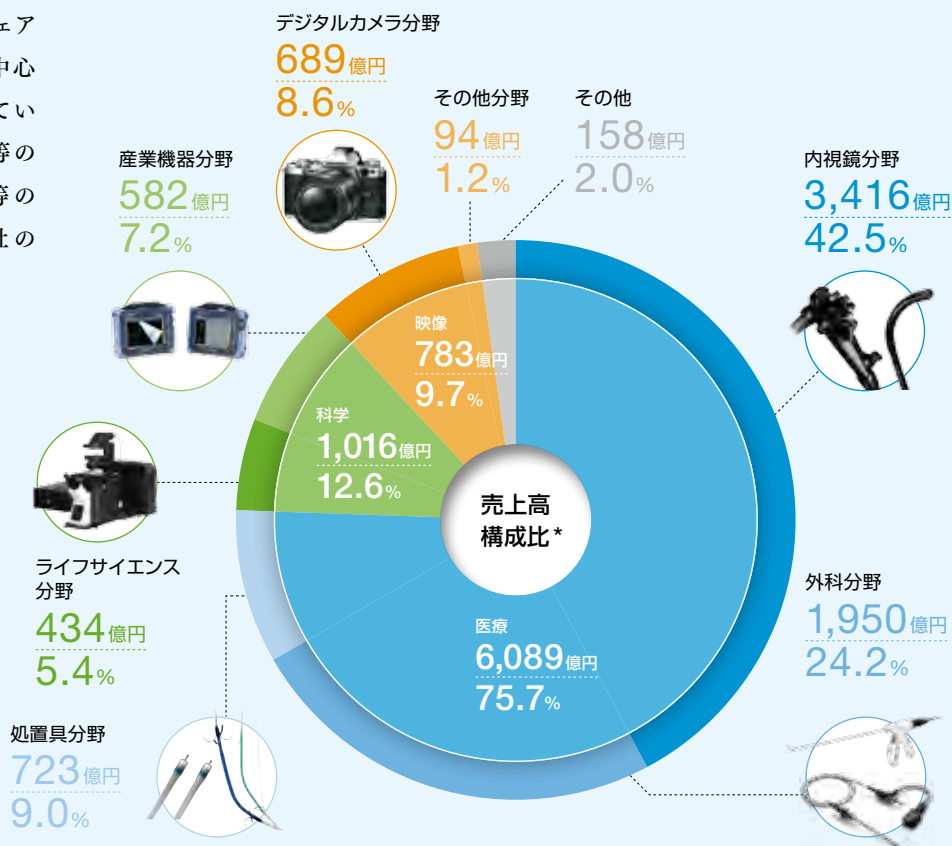
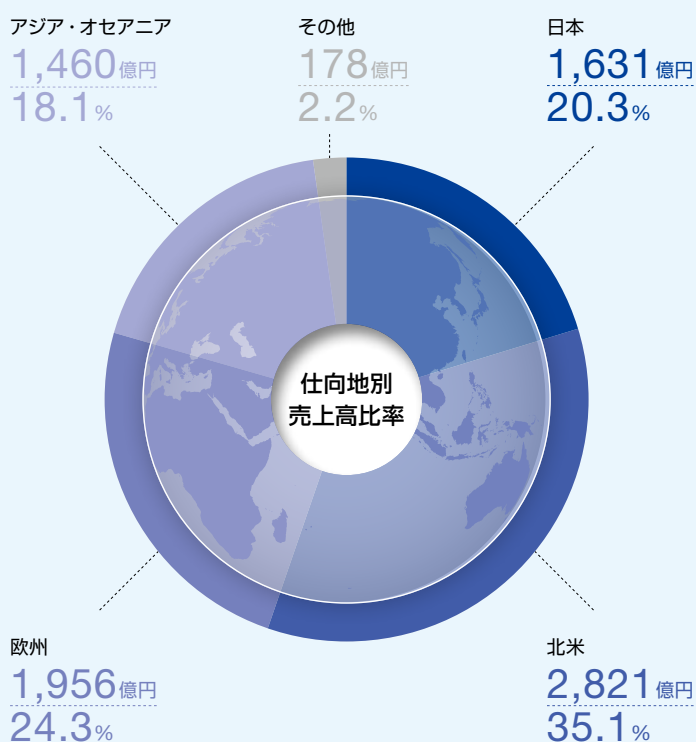


At a Glance

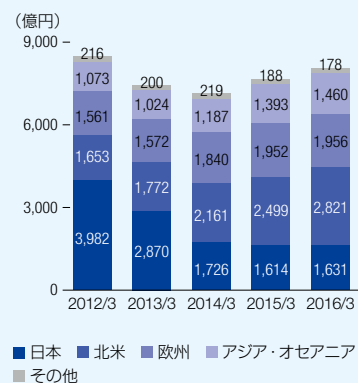
当社の売上高は、グローバルシェア7割以上の消化器内視鏡分野を中心とした医療事業が約8割を占めています。顕微鏡や非破壊検査機器等の科学事業およびデジタルカメラ等の映像事業を加えた3事業が当社の事業ドメインです。



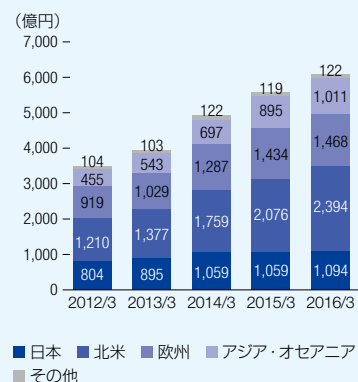
* 2016年3月期連結売上高 (8,046億円) に対する比率



仕向地別売上高の推移 (連結)



仕向地別売上高の推移 (医療)

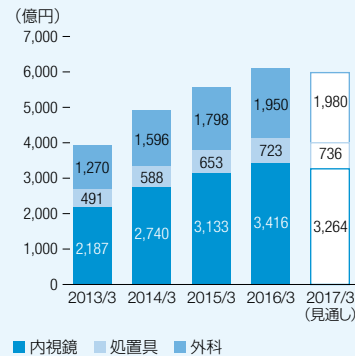


医療事業

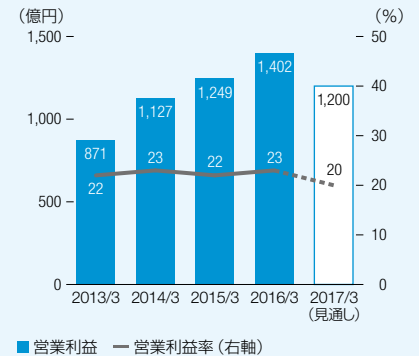
2016年3月期の事業概況

消化器内視鏡分野をはじめとして、外科分野、処置具分野の全分野で好調に推移しました。引き続き主力の消化器内視鏡・外科内視鏡のシステム製品やエネルギーデバイスが売上を伸ばし、地域別では北米やアジアがドライバーとなりました。売上高は前期比9%増の6,089億円、営業利益は前期比12%増の1,402億円となりました。

売上高



営業利益／営業利益率

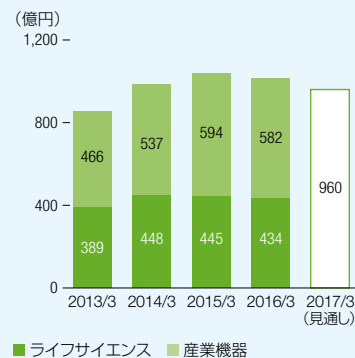


科学事業

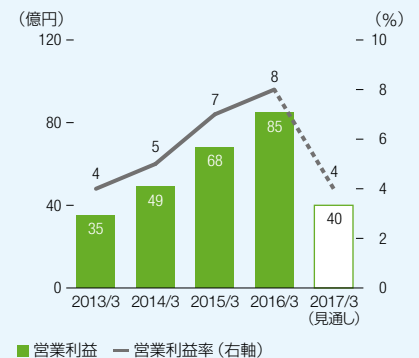
2016年3月期の事業概況

ライフサイエンス分野は、研究施設の予算執行遅れの影響により研究用途の機器を中心に減収となり、産業分野は、資源価格下落の影響を受けて非破壊検査機器等の製品が減収となりました。一方で、原価低減や販売拠点の統合等による効率化を進めた結果、売上高は前期比2%減の1,016億円、営業利益は前期比24%増の85億円となりました。

売上高



営業利益／営業利益率

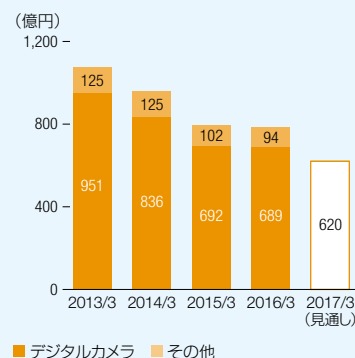


映像事業

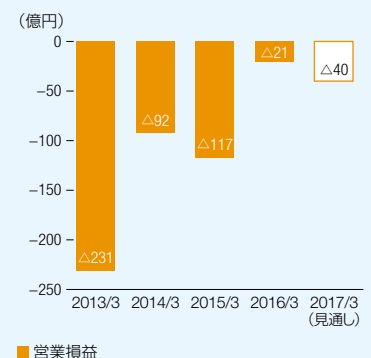
2016年3月期の事業概況

事業規模を絞り込み、それに見合った水準に費用を確実に圧縮しながら、収益の確保とリスクの低減に取り組み、売上高は前期比1%減の783億円、営業損失は21億円（前期は117億円の営業損失）となりました。目標としたブレークイーブンには到達できませんでしたが、大幅な損益改善を達成する等、構造改革の成果が着実に表れました。

売上高



営業利益（損失）



（注）2015年3月期および2016年3月期に事業区分の変更を行っていますが、前期の売上高はそれぞれ変更後のセグメント区分で記載しています。

その他事業

骨補填材等、生体材料の販売やレンズモジュールの外販を行っているほか、新規事業に関する研究開発や探索活動に取り組んでいます。将来の柱となりうる新事業の探索、将来技術の獲得に向けた研究・探索を推進しています。